たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	71.8%
海外株式	22.0%
現金（円・$）	6.2%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	11.8%
海外株式	14.0%
現金（円・$）	-63.9%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。

※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
12.7%	-0.2%	4.1%	1.0%	10.2%	1589.52%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	93.1%
現金	6.9%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	71.4%
アメリカ	21.7%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
資本財・サービス	33.16%
一般消費財・サービス	21.17%
金融	13.83%
情報技術	10.58%
生活必需品	6.88%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	資本財・サービス	18.65%
2	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	18.37%
3	ServiceNow, Inc NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	12.05%
4	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	9.90%
5	ヒューリック 3003	日本円	日本	金融	7.38%
6	マクニカHD 3132	日本円	日本	資本財・サービス	7.35%
7	ディップ 2379	日本円	日本	一般消費財・サービス	5.73%
8	シンメンテHD 6086	日本円	日本	資本財・サービス	5.72%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	31.28%
5000億～1兆円未満	1.32%
1000億～5000億円未満	16.42%
1,000億円未満	50.99%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

11月は直近まで強烈な逆風が吹き荒れた反動で大きく反発し10％前半の成長となり年初比でプラスを回復することができました。月中に今後の個人的な資金需要のため現金化を進めたにもかかわらず、この実績を残せたことは十分にマーケットの力強さの恩恵を受けられたおかげだと考えています。

なんといっても11月は決算でしょう。主力筆頭であるオカダアイヨンは修正もなかった前四半期以降下落トレンドが続いていましたが、通期上方修正と増配で大幅に上昇。同じく前四半期がガッカリ決算扱いだったウルトラファブリックスも顧客側在庫消化が進んだことが確認されて大幅高。ヒューリックも上昇。太平製作所も前四半期の勢いが衰えず上方修正と増配で急上昇。下がったのは期待の高すぎたマクニカくらいでした。米国株でもタペストリーは順調な経過を見せてカプリ買収発表後からの下落トレンドが底打ちしたような形で反発しています。

取引としてはニップンを全部売却、ディップを一部売却しています。一方でシンメンテを買い戻し。決算後の急騰から反落したところでオカダアイヨンも買い増しました。マーケットが順調だとやることが少なくて助かります。

11月中ではないのですが、とても久しぶりにリアルで株の話をする機会がありました。普段は完全自分だけで完結しているので、自分の中にあるものを相手に伝えられるように頭の中で成形して出力するのはとても頭の体操になりました。以前に比べてインプットの量が圧倒的に減少しているのは自覚していましたが、アウトプットも不足していたんですね。どっちがどうとかではなく、日々淡々と両方行い、量をこなしていく必要性を痛感しています。そりゃ仕事でやってる人たちは強いです。当たり前ですね。

この件のこともあり、来月は大胆にポートフォリオをいじる予定です。思いをもっとポジションに反映させなければならない。どうにも古いものが正しく、新しいものは様子見という姿勢が凝り固まっている感じがしているので。

さらに、やろうと思って先延ばしにしていた半導体界隈の資料も見て今までわからないまま放っておいた事柄についてもキャッチアップを図りました。結果としてマクニカはこのまま継続保有という結論になりました。国策としての半導体強化を推進してたメンバーが失脚して雰囲気変わりそうですが、マクニカはもうすでに動いているTSMC熊本が生産する線幅の半導体を主に取り扱っていて、顧客も国内の比率が高いので順調に恩恵がありそうです。しかし、少しみた限りでも半導体って本当に難しいですね。この分野できちんとわかった上で取ってる人ってどれくらいいるんだろうか…という気持ちです。

もういい加減勝ちたいと思って早5年。来月は来年に向けてその足掛かりをつくるための月にしたいですね。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。